

只見・明和で恒例の盆踊り大会、朝日盆フェス新たに 各地区で盆イベント賑わう！

8月14～15日、各地区で盆踊りなどが開催され、多くの帰省客とともに賑わいをみせました。

朝日地区では、「朝日『盆』フェス」が初開催され、ステージではカラオケ大会やライブ、仮装大会の催しの他、会場では多くの出店が並び、来場者は多彩な催しと食を楽しみました。

また、只見・明和地区の盆踊りでは、花火大会や仮装をした子どもたちが、盆の夜を彩りました。



▲只見地区盆踊りのおはやし(8月14～15日開催)



▲朝日盆フェスのライブ演奏(8月15日開催)



▲明和地区盆踊りで仮装した子どもたち(8月15日開催)



▲墓前で手をあわせる菅家町長

長岡藩の家老・河井継之助を偲ぶ… その壱「河井継之助墓前祭」

8月16日、塩沢地区の医王寺で河井継之助墓前祭が執り行われ、新潟県長岡市や只見町の関係者が出席しました。主催者である塩沢地区観光協会の田村勝男会長は「来年は没後150周年を迎える。今後も皆さまのご支援をお願いしたい」と挨拶し、菅家町長が追悼の言葉を述べました。参加者の焼香が行われた後、前田剣豪会の皆さんによる剣舞が披露され、全員で河井継之助を偲びました。

その弐「河井継之助を語る会」

同日、河井継之助墓前祭の後に第1回「河井継之助を語る会」が塩沢集会施設で開かれ52名が参加しました。語る会では、参加者が河井継之助や戊辰戦争、只見や長岡などに対する思いを発表し、みんなで語り合いました。語る会は今後も継続して開催していく予定です。



▲河井継之助を語る会代表の目黒良樹さん

会津只見考古館 開館25周年記念まつりを開催

8月11日、会津只見考古館の開館25周年を記念した「会津只見考古館まつり」が同館で開かれ、夏休み中の子どもたちなどで賑わいました。

無料開放された会場では、^{まがたま}勾玉づくりや火おこし体験、糸つむぎ・木柀織り体験などが行われた他、つる細工や小物、南郷トマトなどの販売が行われました。

子どもたちは、先人の知恵を学びながら体験を楽しんでいました。



▲火おこしを体験する子どもたち

福島大学生などが小・中学生に学習指導 「サマースクール」開講！

8月21～24日までの4日間、小・中学生を対象にした学習塾「サマースクール」が各振興センターで開かれ、小・中学生59名が参加しました。福島大学で教師を目指す大学1～3年生12名と只見高校生4名が講師を務め、参加した子どもたちに熱心に学習指導を行いました。指導を受けた子どもたちからは「苦手だった計算ができるようになった」などの声が聞かれ、大学生の皆さんも「実践的な教育の場として大変勉強になります」と話していました。



▲(写真/明和振興センターで授業を受ける児童)講師を務めた福大生の中には只見出身者もいました

明和地区の恒例行事 「お盆帰省者歓迎野球大会」開催

8月16日、明和地区恒例の「お盆帰省者歓迎野球大会」が明和小と只見中のグラウンドを会場に開かれ、明和全集落から6チームが参加し優勝を争いました。

熱戦が繰り広げられた大会は、小林チームと坂田チームによる決勝戦が行われ、見事小林チームが優勝しました。

大会終了後には慰労会が各チームで行われ、帰省者との親睦を深めていました。



▲多くの帰省者が参加した野球大会

季の郷湯ら里で夏休み特別企画 「ミニ四駆特設コーナー」で賑わう

7月21日～8月2日までの13日間、季の郷湯ら里の夏休み特別企画「ミニ四駆特設コース」が同施設ロビーに設置され、賑わいを見せました。このコースは、ミニ四駆をはじめ可動模型やプラモデルなどを製造販売する(株)タミヤからレンタルしたもので、無料開放されたコースでは、宿泊客や町内外の方々など多くの方が利用しました。夏休み期間ということもあり、親子連れで楽しむ姿も見られました。



▲ミニ四駆を走らせる子どもたち